

芝浦工業会会報

第36号

東京工業大学附属科学技術高等学校同窓会会報

2015(平成27)年6月1日発行
芝浦工業会 広報委員会

新会長に玉真氏

2月28日の第90回芝浦工業会幹事会に於いて、金子会長の辞任に伴い新たに玉真正美氏が選任されました。玉真会長の任期は金子前会長の残り任期である平成28年11月の総会時までとなります。新体制での役員は以下の通りです。新体制は平成27年4月1日より発足しました。

会 長 玉真正美(昭和38年電気通信科卒)

副 会 長 宇口俊雄(昭和41年工業化学科卒)

伊藤 博(昭和42年機械科卒)

監 査 役 瀬ノ尾正二(昭和29年電気通信科卒)

福田又造(昭和30年電気通信科卒)

名誉会長 金子 聡(昭和34年工業化学科卒)

玉真会長の所信を以下に紹介します。

就任あいさつ

芝浦工業会会長 玉真 正美

本年4月1日から当会会長を仰せつかった玉真正美です。就任に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

私は、平成4年の当会再興に少し遅れて平成6年から幹事会に参加し、その後しばらくの間、当時あった名簿委員会(現在のデータ管理委員会に相当)に属しておりました。次いで、あるとき総務委員会に移り、また広報委員会を少しの間お手伝いしておりました。そのような中、平成26年11月の総会で副会長に選出された上で、今年2月の幹事会で4月から会長を務めるようにとの決定があり、今回の会長就任となりました。

会則の規定に基づき、当面の任期である来年秋開催予定の総会まではほぼ1年半を精一杯務める所存ですので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

就きましては、就任に当たり思う処を紙面の許す範囲



で述べることに致します。

当会は、母校の歴史に沿って沿革を辿れば長年月に亘る活動があるものと思いますが、現在の会は平成4年の再興以降で数えると23年継続しております。

当会会則第2条には、「第2条 当会は、会員相互の親睦をはかり、母校の発展と科学技術及び工業の進歩発達に寄与することを目的とする。」とあります。同窓会としての性格を端的かつ十分に表しているものと思います。

集約すれば、「会員の親睦と母校への貢献」を図るために、どのように活動するかが、当会の存在意義であると言えます。これは、幹事会そして幹事会内の4委員会(総務、財務、広報、データ管理)の活動により実現できており、幹事諸兄にはいずれかの委員会に属して活動頂いております。

会の活動は、これら委員会および母校の当会OBの先生方が務めてくださっている事務局により連綿と行われておりますが、更に活発な活動を望む声が挙がっているのも事実です。

そこで、まずは幹事会および委員会の強化を図り、会員諸兄と幹事会との距離を縮め、会全体の活性化を図りたいと思っております。そして、幹事会に諮ってその具体的動きを一つずつ進めていくことを考えております。

いかなる組織もそうですが、停滞が起きないように常に变革を心掛け、前に進む努力を続けることが、芝浦工業会の明日に繋がるものと思います。

何れにしましても、会員および幹事諸兄のご協力が必要であれば、何事もできません。芝浦工業会をよりよくするために皆様の力強いご協力を切にお願い申し上げます。そして、会の運営は衆知を集めて力を合わせて進める、でなければならないと信じております。

会員の皆様のための芝浦工業会、として当会のより一層の発展が果たせるよう祈念して私の会長就任のご挨拶と致します。

学校・PTAとの交歓会

第90回芝浦工業会幹事会が終了した後に、交歓会が開催されました。

幹事たちの他に、新たに仲道副校長とPTA会長の灰原多香子さん、同副会長の池田陽子さんが参加してくれました。

ここ数年、PTAのご協力により、芝浦工業会は弟燕祭のPTAコーナーの一角を借り、母校の歴史を紹介するスライドの上映や、OBによる特設コーナーにより同窓会の広報活動ができるようになるなど、PTAとの繋がりも深くなってきました。

この交歓会では、芝浦工業会と学校とPTAとの三者が親睦をはかり、全員が終始なごやかなひと時をすごすことができました。



仲道副校長の挨拶

芝浦工業会定期総会 審議事項の詳細

平成26年11月8日（土）母校大講義室にて開催

昨年11月8日に開催されました総会にて承認されました平成25年度決算、平成26年度予算の概要、および、改正されました新会則を以下に掲載しました。

平成25年度決算報告

(H25.4.1～H26.3.31)

1. 一般会計

収入の部	支出の部
会費(998+196名) 2,388,000	委員会活動費 2,350,175
入会金(196名) 137,200	総務委員会費 354,156
寄付金 85,000	広報委員会費 1,706,141
懇親会費 63,000	データ管理委員会費 159,018
雑収入 3,411	財務委員会費 130,860
	運営費 323,140
	弟燕祭費用 8,000
	振込手数料 102,524
	交歓会等費用 102,080
	活性化PJ費用 110,536
収入小計 2,676,611	支出小計 2,673,315
前期繰越金 8,405,264	次期繰越金 8,408,560
収入合計 11,081,875	支出合計 11,081,875

2. 特別会計

収入の部	支出の部
前期繰越金 8,455,796	在校生成績優秀者表彰費用 110,000
	次期繰越金 8,345,796
収入合計 8,455,796	支出合計 8,455,796

3. H26-3-31現在 現金・預貯金残高

現金・預貯金残高	内 訳
現金 0	前受金 521,100
貯金口座 7,113,247	未払金 30,237
預金口座 10,042,446	次期繰越金 16,754,356
仮払金 150,000	一般会計 8,408,560
	特別会計 8,345,796
合計 17,305,693	合計 17,305,693

平成26年度予算

(H26.4.1～H27.3.31)

1. 一般会計

収入の部	支出の部
会費(970+193名) 2,326,000	委員会活動費 3,003,000
入会金(193名) 135,100	総務委員会費 685,000
懇親会費 60,000	広報委員会費 1,820,000
雑収入 3,000	データ管理委員会費 298,000
	財務委員会費 200,000
	運営費 1,117,000
	総会費用 207,000
	振込手数料 160,000
	交歓会等費用 100,000
	活性化PJ費用 650,000
収入小計 2,524,100	支出小計 4,120,000
	特別準備金 5,000,000
前期繰越金 8,408,560	予備費 1,812,660
収入合計 10,932,660	支出合計 10,932,660

2. 特別会計

収入の部	支出の部
前期繰越金 8,345,796	次期繰越金 8,345,796
収入合計 8,345,796	支出合計 8,345,796

〔注釈〕

H26年度会計から次のように変わりました。

☆従来一般会計の収入にて処理していた寄付金を特別会計の収入で処理します。

☆下記の母校支援費用は全て総務委員会費用とする。

- ・弟燕祭費用
- ・学校協力費（課題研究支援）
- ・卒業記念品代（印鑑）
- ・在校生成績優秀者表彰費用

芝浦工業会会則が改正されました

改正の経緯については4ページをご参照ください。

芝浦工業会会則（改正6）

第1章 総則

（名称）

第1条 当会の名称を芝浦工業会とする。

（目的）

第2条 当会は、会員相互の親睦をはかり、母校の発展と科学技術及び工業の進歩発達に寄与することを目的とする。

（所在地）

第3条 当会は、事務所を東京都港区芝浦3丁目3番6号の東京工業大学附属科学技術高等学校内に置く。

（定義）

第4条 本会則の用語の定義は次のとおりとする。

- 一、決議：総会出席者の過半数の承認を要することをいう。

二、選任：総会出席者の多数決等により選出し、その任に就かせることをいう。

三、クラス：最終学年の各学科またはコースをいう。

第2章 事業

（事業の内容）

第5条 当会は、その目的を達成するために、次の事業を行う。

- 一、会報、会員名簿の発行及び頒布、並びにその他の広報活動
- 二、母校に対する援助及び功労者の表彰
- 三、各種会合の開催
- 四、その他当会の目的達成に必要な事項

第3章 会員、役員及び幹事

（会員）

第6条 当会は、次の会員をもって組織する。

- 一、正会員 東京工業大学附属科学技術高等学校卒業

生及びその前身学校卒業生。前身学校名については
附属資料1に示す。

二、特別会員 東京工業大学学長、同理事・副学長、
同各学部長、同各大学院研究科長、東京工業大学附
属科学技術高等学校現職員及び旧職員、並びにその
前身学校の旧職員。ただし、正会員を除く。

三、準会員 東京工業大学附属科学技術高等学校在校生
(役員及び幹事)

第7条 当会に次の役員をおく。役員の任期は2年とし、
再任を妨げない。

一、会 長 1名。当会を代表し会務を総理する。

二、副会長 若干名。会長を補佐する。

三、監査役 2名。当会の会計を監査する。

四、顧 問 若干名。当会の運営を助言する。

2. 当会に幹事をおく。幹事は原則として、各クラ
スより1名ずつ以上を選出する。幹事の任期は2
年とし、再任を妨げない。

3. 第1項第一号から第三号の役員に事故あるとき
は代行を置くことができる。

第4章 総会、幹事会及び委員会

(総会、幹事会及び委員会の役割)

第8条 当会の総会、幹事会及び幹事会の役割は、次の
とおりとする。

一、総 会 総会は当会の最高の決議機関で、当会の
事業の方向を決定し、会員に対して事業の状況を明
確にする組織である。

二、幹事会 幹事会は総会に次ぐ当会の決議機関で、
当会運営の中心的役割を果たす組織である。

三、委員会 幹事会に、委員会をおき、当会事業を企
画・運営し、当会事業や業務を円滑に推進する。

第9条 総会は次の事項について審議し、決議する。

一、会則の改正

二、役員の選任

三、活動報告及び活動計画

四、会計予算・決算報告及び承認

五、会計監査報告及び承認

六、個人情報の利用目的の変更(ただし、軽微な変更
を除く)

七、その他総会決議が必要と幹事会が認めた事項

2. 第7条第3項の代行者は幹事会の承認をもって
行うことができる。ただし、任期は次の総会まで
とする。

(総会、幹事会及び委員会の運営)

第10条 総会、幹事会及び委員会の運営は「組織規程」
による。

第5章 会 計

(収入)

第11条 当会の通常経費は、会費、寄付金、預金利子、
その他の収入をもって支弁する。

(入会金)

第12条 当会に入会するときは、入会金700円を納付する。
ただし、特別会員および準会員を除く。

(会費)

第13条 正会員は、会費として毎年度2000円を納入する。

2. 年会費の対象期間は、第12条の会計年度と同じと
する。

3. 幹事会は会費免除者を定めることができる。

(会計年度)

第14条 当会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年
3月31日に終わる。

第6章 規則の体系

(規則の体系)

第15条 当会の規則体系は、会則を頂点とし、これに規
程、細則を加えた3階層とする。各規則の定義は別表
による。

第7章 附則

(会則改正の施行日)

第16条 本会則改正の施行日は、総会での承認日とする。

(別表)

規則の体系と定義

規則名	定義	備考
会則	当会の目的、方向及び重 要な事項を定めた規則で ある。	当会の憲法ともいうべき もので、当会規則の最上 位に位置する。
規程	会則に基づき、当会の組 織を運営するための仕組 み等の基本的事項を定め た規則である。	「個人情報保護方針」等 の特定方針は規程の1つ として位置づけるが、当 会規則の中では中間位に 位置する。当会規則の中 核的役割を持つ。
細則	規程の内容をさらに細部 について定めた規則であ る。	当会規則の中では最下位 に位置する。具体的手順 等を規定している。

注、別表や附属資料等も規則に含む。

(関連規程)

1. 組織規程

2. 規則規程

(改正の実施)

改正	改正の施行日
1	平成4年(1992年)11月14日
2	平成11年(1999年)4月1日
3	平成14年(2002年)10月26日
4	平成18年(2006年)11月11日
5	平成22年(2010年)11月13日
6	平成26年(2014年)11月8日

総務委員会報告

総務委員長 伊藤 博

平成27年度スタートにあたり、芝浦工業会人事（役員及び各委員会委員長）並びに母校行事と参列者を以下にご紹介致します。

会 長 玉真正美（新任：昭和38年電気通信科卒）
名 誉 会 長 金子 聡（新任：昭和34年工業化学科卒）
副 会 長 宇口俊雄（重任：昭和41年工業化学科卒）
〃 伊藤 博（重任：昭和42年機械科卒）
監 査 役 瀬ノ尾正二（重任：昭和29年電気通信科卒）
〃 福田又造（重任：昭和30年電気通信科卒）
財務委員長 田中正昭（重任：昭和33年電気通信科卒）
広報委員長 小林恒男（重任：昭和42年建築科卒）
データ管理委員長 ト部宣行（重任：昭和63年電気科卒）
総務委員長 伊藤 博（重任：昭和42年機械科卒）

又、母校行事には次の芝浦工業会役員が参列致しました。

- ・母校卒業式：会長出席（金子〈3月時会長〉）
副会長出席（玉真〈3月時副会長〉）
- ・母校入学式：副会長出席（伊藤）
- ・母校始業式：副会長出席（宇口）
芝浦工業会より成績優秀者21名に対し、
優秀者表彰並びに図書券（1人あたり
5,000円）を授与致しました。

新年度を迎え、ご紹介しました役員並びに各委員会委員長共々新たな気持ちで芝浦工業会活動にあたる所存です。

芝浦工業会の現況と活動をご理解いただく為、従来に増して情報発信に努めると共に皆様のご意見を各種活動に反映したく思っております。

忌憚のないご意見、ご指摘等をお寄せ下さい。

芝浦工業会活動の活性化には卒業生の皆様のご支援とご協力、更には積極的な参加が必要です。

宜しくお願い致します。

財務委員会報告

財務委員長 田中 正昭

財務委員会活動のひとつは、会費等の「適正な管理」です。それには収入と支出を「適正」に記録しなければなりません。この「適正」の意味は、単に収入と支出が金銭的に正しいだけでなく、その内容までを含めた正しさでなければなりません。

現在その記録のツールとして、会計ソフトの「勘定奉行」を使用しています。会計ソフトを使用することにより、簡単に複式簿記を採用することが出来ます。複式簿記と言うと工業系の皆さんにはあまり馴染みがないと思いますが、簡単に言えば、お金が入ってくる、または出ていくのには、必ず理由があります。例えば会費として入ってくる、または会報印刷費として出ていく、等ですが、この理由に名称（会計では勘定科目と言います。）

を付けて、お金の出入りと同時に記録するのが、複式簿記です。したがって、収入は会費や寄付金等が幾らあって、支出が何に使われたか（会報印刷費や学校協力費など）内容が明確になります。複式簿記はそれゆえに記録が複雑なのですが、会計ソフトの利用で、1つのデータを入力すれば、複雑な記録は自動的に行われますので、記録ミスを防ぐことが出来ます。

これが財務委員会活動のひとつです。その他会計ソフトの結果データを基に、予算に対する実績の把握、決算書の作成、予算書の策定など、芝浦工業会の財務運営にあたっていますが、財務委員会のメンバーが少なく困っています。ぜひこれらのことに興味のある会員の方に、財務委員となってお協力頂きたいと思っています。芝浦工業会の連絡先までご一報ください。

広報委員会活動報告

広報委員長 小林 恒男

新たに幹事就任を快諾いただいた阿部直子さん（昭和58年電子科卒、旧姓井上）は、総務委員長とも相談の結果、広報委員として活動してもらうことになりました。玉真委員は会長就任に伴い広報委員を退任しました。委員長を務め34号の発刊にも尽力いただきありがとうございました。当面は、山崎（昭和38年機械科卒）、細田（昭和42年電気通信科卒）、阿部（昭和58年電子科卒）、小林（昭和42年建築科卒）の4名で広報活動を進めます。休眠状態の広報委員の方たちも今後の参画をお持ちします。

36号の会報発行に向け4月11日に編集委員会を開催しました。

芝浦工業会会則の変更について

データ管理委員長 ト部 宣行

平成26年11月8日に開催された平成26年度芝浦工業会総会において、当会会則が改正されました。

今回は平成22年度芝浦工業会総会において会則改正を行っていますが、その後、次のような意見が出されました。

- ・総会での決議の解釈が明確でない。
（改正条文第4条関連）
 - ・母校の学校名について、例示する基準が明確でない。
（改正条文第6条第1号関連）
 - ・特別会員の東京工業大学関係者の基準が明確でない。
（改正条文第6条第2号関連）
 - ・役員の選任方法が明確でない。
（改正条文第7条関連）
 - ・総会での審議事項が明確でない。
（改正条文第9条関連）
 - ・改正の記録の記載事項が平仄が取れていない。
（改正条文「改正の記録」関連）
- このため、このたび改正を行うこととしたものです。

平成26年度芝浦工業会総会では満場一致で改正が決議されました。ここに改正された会則を2～3ページに掲載いたします。

【訂正】 3月1日付けの第35号の幹事会だより（3ページ）中、財務委員長名を宇口俊雄氏とありましたが、正しくは田中正昭氏の誤りでした。訂正とともにお詫び申し上げます。

幹事紹介

会報との22年間

昭和42年電気通信科卒 細田 征彦



同窓会の幹事会のお知らせ葉書が届き、幹事では無かったが母校へ行ってみようという欲求に負け出席したのが23年前の平成4年でした。その後の幹事会で会報の再開が決まり、広報委員に任命され、翌年の9月に復刊第1号を発刊し、本年3月に35号となりました。

原稿集めと発刊期日に毎回苦しめられましたが、担当できたことによる良き思い出が多く、継続できた事に感謝です。それまで母校の状況を気にすることも無かったのですが、母校の先生方やOB教員の方々とも会報というなかでお付き合いができ、母校の活躍を記事にすることで在校生にも会報の主旨を理解してもらえたと思います。特に、軌道にのるまで常に背中を押してくれた当時の故高田副会長、そして長年常に笑顔でアドバイスしてくれた故杉村先生のお二人には、カラー化された最新号を見て欲しかったと思います。今後、若い世代に引き継がれ、50号、100号と発刊されるよう会員皆様のご協力をお願いします。

さて、同窓会のことはこれくらいにして、自分の趣味をいうと四季折々の花を題材とした写真を撮りにドライブすることです。高校時代から写真は好きで、アルバイトで貯めたお金で当時人気のオリンパスペンというカメラを買い、それ以来の趣味の一つです。今は、10年前に息子がプレゼントしてくれたデジタル一眼を愛用して、暇があれば夫婦で花を観に行ってます。春の菜の花や桜から、晩秋の赤いナナカマドまで、ファインダーから見る美しい自然は心洗われるひと時です。健康である限りは続けていきたいと思っています。（了）

『作る』

昭和29年電気通信科卒 瀬ノ尾 正二



小学5年生のころ蒸気で動く「首振りエンジン」を求め、アルコールランプを使う吸入器で遊んだ。今思うと良くやけどをしなかった。

木材をつかい小さな電車を作った。動力は「目覚まし時計のゼンマイ」を使った。突然動かなくなったゼンマイの無い時計を母が、近くの時計店に持って行ったが直るわけがない。詫びを言う機会がなく、母は亡くなってしまいとても気が重い。

中学生になってウサギを育てて、お金に換えて「鉱石ラジオ」の材料を買った。ボビンコイルは難しいので、スパイダーのコイルで作る。軍品品流れの「レシーバー」

を母と分け合って聞いた。これは母に好評だった。毎晩楽しんだ。

高校に在学中に、仲間と「拡声装置（アンプ）」を作った。学校行事に役立って、運動会では大活躍？だった。当時のマイクはカーボンマイクで音質はあまり良くなかった。現在のカラオケの音響設備は飛躍的なシステムと思う。また、NHKで試験放送が始まった「テレビ」を受信するため、仲間と夏休みを利用して受像機を作った。丸いブラウン管に映る画像は（四角い）懐かしい。級友みんなで楽しんだ。そのテレビは学校に残ってないかな？

会社に勤務する中、大手との取引で「管理検査」を求められた。納入する製品を全数検査して全数の良品が求められた。当時の製品は「金属皮膜抵抗」±2～3%のリニアリティで、自動検査機を作るようになった。当時国内には高速で計測できる計測器はなくて、高額な輸入品を購入した。英語の説明書の解読と、インターフェースの制作に友人の油井君の力をかりて自動機を作った。「マイコン」と「機械語」で制御した。この機器では大変苦労した。特にノイズによる誤作動には泣かされた。この解決には6ヶ月もかかった。

マジックを二十年来教えて頂いてる講師が、昨年「箱にカードを入れて3秒後に蓋が閉まる」こんな物が出来ないだろうか？「カード当て」である。いろいろな回路を作り、また作り…ほぼ要求に近い物が出来上がった。これが六本木のあるお店で活躍している。いま、さらにバージョンアップを求められている。いろいろ考察しているが…これもクリアできるところまできた。

演者も先生も私も、今 ハッピー!!!

芝浦工業会という同窓会

昭和56年建築科卒 勝山 公嗣



芝浦工業会は、母校在校生を含めた卒業生全員を対象として組織され、運営されているところに大きな特長があると思います。以前は各科で別々に実施されていた同窓会を統合して、昭和33年に芝浦工業会として発足したと伺いました。学校自体は明治まで遡りますが、とても長い歳月を経て現在に至っているのですね。しかし、必ずしも順風満帆という訳ではなかったようです……。

あるとき芝浦工業会から「自分のクラスから幹事を出して欲しい」との手紙が届きました。卒業してから四半世紀以上経過していた上、クラス会にも無縁だった私は自分で引き受けざるを得なく、平成20年2月の幹事会に初めて出席しました。正直、年配の方ばかりでドキドキ

しましたが、1年生の時の担任＝杉原先生が事務局におられたことと同じ会社に勤める先輩が幹事でいてくれたお蔭でホッとしたことを思い出します。その後は、年に4回ほどの幹事会に行けたり行けなかったりしていますが、なるべく顔を出すようにしています。

幹事会では諸種の課題や案件について真剣に話し合っています。若輩者の私にとって楽しみなのは“第二部”で、親ほども年齢離れた先輩方から色々な話を聞けたり相談

に乗ってもらえたりできることは、とても勉強になりますし有意義なことだと思います。いい学校出られて良かったのと、芝浦工業会の一員であることの誇りや有難さを感じる場面でもあります。

芝浦工業会では、今、また、新たな幹事を募集しています。同窓生の皆さまには、気軽に幹事会に足を運んで下さるようご検討をお願いし、どうかご協力いただけますことをお待ちいたしております！

退任にあたって

校長を終えて

前校長 齋藤 義夫

平成27年3月に東京工業大学を定年退職し、兼務していた附属高校の校長も宮本文人新校長に引き継ぎました。校長としての2年間は、慣れる間もなく過ぎてしまった印象ですが、大学生とは異なり、若い高校生との交流は、いろいろな意味で良い経験であり、楽しく過ごせました。附属高校の教職員の皆さんをはじめ、芝浦工業会の皆さんのご協力によるものと感謝しています。

校長の役割は、「渉外係」と「挨拶係」だと予想していました。「渉外係」については、大学や学会で種々の難題に対処してきた経験があるので、自信がありました。ところが、未成年の生徒と保護者の方の両方を考慮して対応しなければならない状況には多少戸惑いました。自分の高校時代と比較すると、隔世の感があり、大学生も成人として扱えなくなっている現状が納得できました。

「挨拶係」については、挨拶が得意でないもので、いつも悩みの種でした。ただ、私自身が高校時代の校長の挨拶をまったく覚えていないので、あまり真剣に考えずに、気楽な解決策を2年目には思いつきました。それは、挨拶のときに「校長の宿題」を出す方法です。始業式でその学期の宿題を出し、終業式では休みの期間の宿題を出すことにより、生徒に印象に残るようにと考えました。宿題として「考えること」、「評価すること」の重要性を強調し、成長期の高校時代にしっかり自立するように、との意図です。この効果を確認できないのが残念です。

高校での取り組みで印象に残ったのは、国際交流です。毎年実施しているタイやフィリピンとの国際連携はもとより、海外からの来客が多いことは附属高校の特徴になっています。スーパーサイエンスハイスクールSSHの事業で培った国際交流は、スーパーグローバルハイスクールSGHに平成27年度から新規採択されたことにより、さらに充実するものと期待されます。また、大学もスーパーグローバルユニバーシティSGUに指定されていますので、高大連携の強化と合わせて、国際化が着実に進展すると予想されます。理工系附属高校の特徴を生かした今後の発展を楽しみにしています。

終わりに、私事になりますが、4月から東京工業大学のグローバルリーダー教育院に所属し、特任教授として



大学院生の教育に従事することになりました。人間の特性である「ものづくり」の面白さと重要性を理解することが、未来のグローバルリーダーにとって必要不可欠であるとの観点で、学生と一緒にいろいろなことにチャレンジするつもりです。

芝浦工業会事務局員として

昭和44年工業化学科卒 杉原 了三
(理科〈化学〉教諭)



この3月をもちまして母校を退職しました。芝浦工業会会員の皆様には、事務局として大変お世話になりました。少しでも本会・皆様のお役に立ったならば幸いです。

私は、昭和41年に本校工業化学科に入学し卒業、しばらくしてから母校の理科・化学(成瀬宣三先生の下で)技官、その後、教員として勤めて来ました。現在までの人生の大半をこの学校に関係した生活で送ったこととなります。しかしながら、本会、母校の同窓会である芝浦工業会という存在については、高校生入学・在学時は全く認識しておらず、認識したのは卒業後、母校に戻り、本会に関係するようになってからという、誠に駄目な会員です。

母校教員となって、芝浦工業会の事務局を担当する者として、90、100、125周年の式典に、微力ながら協力させていただきました。また、20年ほど前から、会員の皆様の賛助もあり、新たな形の再出発にも協力させていただきました。しかし、本会に対して如何ほどのお手伝いが出来たかは赤面ものです。

母校の理科・化学の教員としては、現在のシステム(一括入学)以前は、工業化学科以外の学科の生徒さんと一緒に学習しました。生徒には出来るだけ分かりやすく、興味を持つように、という考え方で接してきましたが、何人の生徒が化学を好きになってくれたか(嫌いになった人の方が多いのかもしれませんが)、今となっては遅いのですが、この時期になって気になっております。20年以上も昔の生徒さんは、かなりヤンチャな人も多く、年が近かったせいか、授業中に反発されたりと、なかなか一筋縄ではいかなかった記憶もあります。今となっては、良くここまで勤め上げられたものだと、自分でも感慨深いものです。

母校との関係も、ここ数年ますます深くなってまいりました。今後、母校共々、本会の発展を祈念してやみません。長い間、本当にありがとうございました。

生徒会館の思い出



昭和58年電子科卒 阿部 直子



今年はラジオ放送が始まって90年だそうです。このニュースが母校と深い関わりがあることをご存じでしょうか。諸先輩方はもちろんご承知のことと思いますが、若い世代の方々の中には「知らない」という方もおられるかもしれません。

大正14年3月22日に「JOAKこちらは東京放送局であります」という第一声が発せられたのは、芝浦の東京放送局仮放送所（当時の東京高等工藝学校、現在の東京工業大学附属科学技術高等学校）です。その時の音を、NHK ONLINEで聴くことができます。

とこまでは、いわば歴史のひとつコマというところですが、私がここに書きたかったのは、そのラジオ放送局の建物が「生徒会館」として使用されていた時代のことです。

実は昭和58年卒業の私たちが、その建物を知る最後の学年です。私たちが入学した翌年にはそこに新校舎が建てられるため、生徒会館は取り壊されたからです。

当時は木造校舎もまだ残っていて、古き良き時代を偲ばせるキャンパスでしたが、その中でも生徒会館は私にとっては特別の場所でした。

明るい外から会館の中に入ると一瞬とても暗く思えるのですが、そのことでなんだかタイムスリップしたような感覚を覚えたものです。

ここからラジオの第一声が流れたのだ……とことある毎に思っていました。

その趣のある建物にとっても愛着を持っていたのは、そこに「新聞部」の部室があったからでもあります。

高校入学当時、半分中学生のような新1年生からみたらとても大人に見えた3年生の先輩方が、編集会議をしたり、仲間内で騒いだりしている光景を今でも覚えています。

私自身も3年間を通じて新聞部に所属していましたが、この生徒会館で先輩方と過ごした時間が、そこだけ切り取ったように鮮やかに記憶に残っています。青春の

1ページというのでしょうか。

この度、芝浦工業会の広報委員会の末席に座らせていただくことになりました。諸先輩方から教えていただける機会が持てましたことを感謝しております。また、新聞部と一緒に紙面を作った方々で広報の仕事にお力を貸してくださる方がいらっしゃいましたら、是非ご一報ください。

どうぞよろしくお願いいたします。

ご不幸

— 謹んでお悔やみ申し上げます —

■細谷 博 殿（昭和36年電気科卒）

平成25年7月6日 逝去

■岡田 澄夫 殿（昭和42年建築科卒）

平成26年1月 逝去

■吉田 剛二 殿（昭和17年建築科卒）

平成26年7月 逝去

細谷氏の奥様よりご寄附および葉書を頂戴しましたので、内容を以下に記します。

前略

主人は、会報を楽しみに読んでおりました。

主人、細谷 博（昭和36年電気科卒）会員番号1219610343は、70才で平成25年7月6日に肺炎で、昨年亡くなりました。特許庁に勤めていて審判長まで務めて、没後、瑞宝小綬章を叙勲しました。亡くなりましたので、特許庁で遺族が受け取りました。

昨年電話したのですが、会報がききましたので、2014年分、最後なので会費の他は寄付金として一万振り込みました。

いつでもいいのですが、追悼者の中に入れて頂き、叙勲の事も話していただけたらうれしくお願いしたくありがたく思います。

母校の発展を祈っていると思います。

今年の冬は寒く、雪害も多そうで雪国の大変さも感じます。東京は雪がないだけでありがたいと思います。主人も母校の発展を見てると思います。

かしこ

（原文のまま掲載させていただきました）

事務局紹介

昭和63年電気科卒 石川 幸治
（情報システム分野教諭）

およそ30年前に本校の電気科に入学した時には、まさかそこで働くことになろうとは思っていませんでしたが、某高専で8年間勤務した後こちらに着任し、既に13年が過ぎました。この間



も芝浦工業会の事務局業務には微力ながら係わらせていただいておりますが、この春まで芝浦工業会を学校側から事務局として長年支えてこられた杉原先生が退職され、数年かけて引き継いできた仕事の多さに今さらながら驚いているところです。

さて、現在の事務局は、私を含めた3人の卒業生教員が本務の傍らで役割を分担しながら務めております。本

稿ではその一端をご紹介します。

私は、4委員会の内の財務とデータ管理のお手伝いをする事が主ですが、実際にはほとんどの業務を各委員会の皆様が精力的に行ってくださいしております。実はこの原稿を書いている今日も両委員会の方々が学校でそれぞれ作業していただいております、天気の良い休日なのに大変頭が下がります。

そんな中で唯一私に任されているのが会報発行前の払込用紙の宛名印字作業です。決して難しい仕事ではありませんが、6000枚を超す印刷にはやはり相当の時間がかかるので、授業の合間等に少しずつ行っています。ご承知の通り、皆様からの会費の一部は母校の生徒の活動に

も役立てさせていただいております、特に専門科目教員の立場からは、課題研究への金銭的支援や弟燕祭での芝浦工業会会長賞表彰は大変ありがたく励みにもなります。一人でも多くの方から会費を納めていただけるとありがたいです。

最近では諸事情により事務局の電話を校内に設置することができず、会員の皆様および個人の携帯電話で対応いただいている役員の方にはご迷惑をおかけしており、事務局としても心苦しいところですが、今後ともご指導ご支援を賜りますよう、また、お時間が許せば、是非母校の弟燕祭に足をお運びいただき、後輩たちに叱咤激励をいただきますよう、お願い申し上げます。

母校だより トピックス

文科省の新規事業に 選定されました！

「スーパーグローバルハイスクール (SGH)」事業

文部科学省は平成26年度より、国公立高校及び中高一貫校を対象に「スーパーグローバルハイスクール (SGH)」事業を開始していますが、本校が27年度SGH56校の中に指定されました。



目的と事業の概要は、グローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来国際的に活躍できるグローバルリーダーを高校段階から育成するのが目的で、国際化を進める大学や、企業・国際機関と連携して、様々な国際舞台で活躍出来る人材育成に取り組む高校等をSGHに指定し、より質の高いカリキュラムを開発・実践するものです。

本校のSGHにおける構想名は「科学技術系素養を持つグローバルテクニカルリーダーの育成」で採択されました。

また、工業系高校は56校中本校のみです。

課題研究の開発、高大連携や活発な国際交流の積極的展開など実績を積んでいる本校ですが、SGHにより、今以上に、国際的に活躍する技術者を輩出する学校になるという期待を卒業生に持たせてくれそうです。

先生方のご苦勞は大変なものと思いますが、同窓会でも協力できる事があれば応援していきたいものです。

今後、SGHの取組についてお知らせできる事が有れば会報に掲載していきます。(目的と概要は文科省のSGH記事より抜粋)

(文責 広報・細田)

今春卒業生の合格状況 (過年度含む)

附属校からの推薦入学が実施されるようになってから、東京工業大学に毎年10名以上の合格者を出しています。東工大に入るならまず附属校へ……！というわけではあ

りませんが、近年、体験入学・学校説明会などに多くの受験生が訪れるようになったようです。難関国公立大にも数多くの合格者を出しており、「知の技術」を備えた一流進学校になってきました。下記に今春の卒業生の合格状況を掲載します。

〔国公立大学〕 東京工業大 (12名)、電気通信大 (6名)、東京農工大・東京海洋大・横浜国立大 (各4名)、埼玉大・首都大学東京 (各3名)、群馬大・防衛大学校 (各2名)、北海道大・帯広畜産大・東北大・秋田大・千葉大・福井大・長崎大・福島県立医大・埼玉県立大・都留文科大・横浜国立大・防衛医科大学校・水産大学校 (各1名) **総計53名**

〔私立大学〕 東京理科大 (29名)、日本大 (25名)、東京電機大 (22名)、芝浦工業大 (21名)、千葉工業大 (20名)、東京都市大・早稲田大 (各15名)、明治大 (14名)、中央大 (10名)、慶応義塾大 (8名)、法政大 (7名)、北里大・東洋大 (各5名)、工学院大・東海大 (各4名)、青山学院大・神奈川大・東京農業大 (各3名)、東京工科大・文教大 (各2名)、桜美林大・神奈川工科大・関東学院大・国学院大・国際基督教大・実践女子大・城西大・湘南工科大・昭和大・昭和女子大・成蹊大・聖心女子大・西南学院大・専修大・洗足学園音楽大・東京家政大・東京家政学院大・東京慈恵医科大・東京未来大・日本社会事業大・阪南大・武蔵大・武蔵野大・武蔵野美大・明治学院大・目白大・横浜薬科大・立教大 (各1名) **総計245名**

公務員 (1名)

データは平成27年4月9日現在
(文責 広報・細田)

○退職教員 (2015/03/31付)

氏名 (退職時の所属および職名)、本校着任日
齋藤 義夫 (校長)、2013/04/01
片岡 哲 (国語科教諭)、1979/04/01
杉原 了三 (理科 (化学) 教諭)、1975/03/01
門田 和雄 (機械システム分野教諭)、1993/04/01
増田 泰治 (情報システム分野教諭)、2009/04/01
村本 将秀 (電気電子分野講師)、2014/04/01
玉木 真 (建築デザイン分野補佐員)、2011/04/01

編集後記

35号は、発送作業の手違いがあり、皆様のお手元に届くのが発行日より1週間ほど遅くなり、ご迷惑をおかけしました。お詫びいたします。3か月の間隔で本号発行となりましたが、皆様のおかげで記事も埋まり、ホッとしております。

芝浦工業会会報 第36号
芝浦工業会広報委員会

平成27年6月1日

〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6

☎080-5502-0541

発行人 玉真正美 編集人 小林恒男 印刷所 (株) 静和堂